

## 第 63 回日本栄養改善学会学術総会 参加者アンケート

実施期間：2016 年 9 月 14 日～30 日

実施方法：WEB アンケート google フォーム

対象：事前参加申込み者および学会評議員

回答者数：308 人

### 結果概要

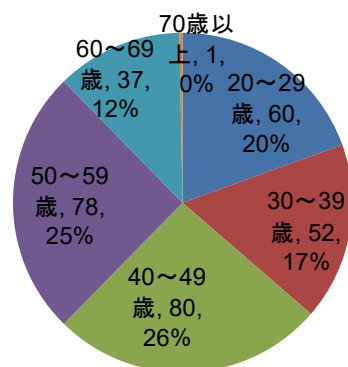
[性別] 女性 257 人 (83.4%), 男性 51 人 (16.6%)

[学会参加回数] 初めて 47 人 (15.3%), 2~5 回 101 人 (32.8%), 6 回以上 160 人 (51.9%)

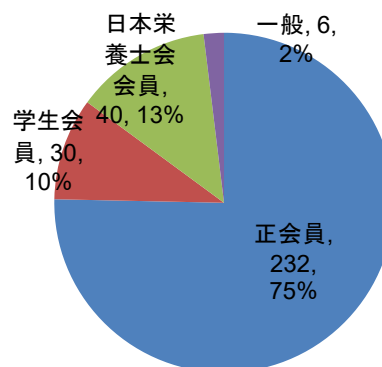
[学会参加日数] 1 日のみ 24 人 (7.8%), 2 日間 83 人 (26.9%), 3 日間 201 人 (65.3%)

[総会出席有無] 出席 86 人 (27.9%), 欠席 222 人 (72.1%)

[年齢] (人, %)



[会員種別] (人, %)



[所属 (複数回答)]

	人	(%)
大学	155	(50.3%)
短大・専門学校	47	(15.3%)
医療機関	44	(14.3%)
学生	29	(9.4%)
行政	17	(5.5%)
研究機関	12	(3.9%)

その他, 学校 7 人(2.3%), 介護保険施設 4 人(1.3%), 地域活動 3 人(1.0%), 保育所 2 人(0.6%)等

[学会参加目的 (複数回答)]

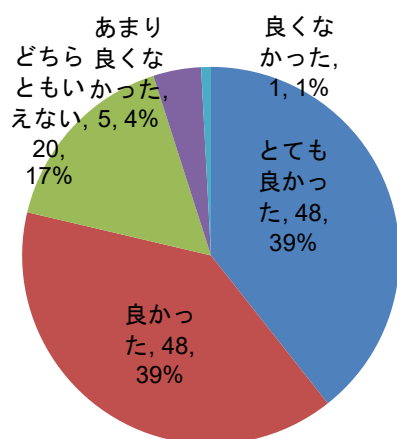
	人	(%)
一般演題発表	218	(70.8%)
情報収集・自己研鑽	191	(62.0%)
ネットワークづくり	60	(19.5%)
座長・コーディネーター等	58	(18.8%)
その他発表	35	(11.4%)
自由集会開催・発表	19	(6.2%)

その他 6 人(2.3%)

[印象に残っているプログラム（複数回答）] 上位 10 位

	人	(%)
シンポジウム①「体内時計はこれからの栄養学を深める～時間栄養学の基礎研究と実践をつなぐ～」	98	(31.9%)
シンポジウム⑤「日本食品標準成分表を実践、研究、教育に活用しましょう」	43	(14.0%)
共催シンポジウム「ロコモティブシンドローム～骨と筋肉を強く保つための栄養の課題～」	33	(10.7%)
教育講演①「新しい研究倫理論：人を対象とした栄養学研究で留意すべきこと」	25	(8.1%)
一般演題	25	(8.1%)
文化講演「イタコの口寄せがもたらす癒しのこころ」	24	(8.0%)
シンポジウム③「学術と産業振興の悩ましい関係：学術団体および専門職の役割を考える」	24	(8.0%)
シンポジウム⑥「青少年のスポーツ栄養」	22	(7.1%)
教育講演④「日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）～改定の要点と活用～」	21	(6.8%)
シンポジウム②「ライフサイクルにおける栄養と疾患発症について」	20	(6.5%)

[参加型のプログラム「ワークショップ」について] (人, %)



※ワークショップ参加者 122 人（回答者の 39.6%）対象

[ワークショップに対する感想・意見] ( ) は人数

ポジティブな意見	ネガティブな意見・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな立場の人の意見を聞いてよかった (19)</li> <li>・勉強になった・ためになった (17)</li> <li>・参加型、座学でない点がよかった (7)</li> <li>・企画としてよかった、続けてほしい (6)</li> <li>・先生とフランクに話せた (5)</li> <li>・少人数でよかった (4)</li> <li>・まとめのセッションがあってよかった (4)</li> <li>・会員としての自覚高まった (2)</li> <li>・今後の課題を認識できた</li> <li>・まとめを HP で見られるようにしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のセッションと重なり参加できなかった、残念 (17)</li> <li>・ワークショップに不慣れ（ファシリテーターも、参加者も） (13)</li> <li>・時間が短かった (6)</li> <li>・まとめのセッションに参加できなかった (4)</li> <li>・事前登録の仕組みがわかりにくい (2)</li> <li>・予想と違った (2)</li> <li>・方向性見えず (2)</li> <li>・他のワークショップにも参加したかった (2)</li> <li>・議論不十分</li> <li>・人数制限があったこと</li> </ul>